

StartupWeekend Tomakomai 報告書
特定非営利活動法人 Startup Weekend

- ① 日程：2021年2月26日（金）～2月28日（日）
- ② 会場：COCOTOMA CAFE
- ③ 人数：30名
- ④ 講師：中本 卓利（NPO 法人 StartupWeekend 認定ファシリテーター）
- ⑤ 内容：

（ア） 初日（18：00～22：00）

18時から19時は参加者同士の交流会、StartupWeekendに関する説明、そしてアイスブレイクを行った後、事業アイデアを持つ参加者が1分間のピッチ（プレゼン）を行った。ピッチした参加者は15名にのぼった。



参加者同士の交流会



アイデア発表からチーム作り

その後、参加者による投票が行われ、最終的には7チームが完成した。この7チームで、最終日である2月28日（日）の16時までにはビジネスを完成させていく。

（イ） 二日目（9：00～21：00）

午前中はチームで活動し、午後は先輩起業家・経営者からのコーチングが行われる。参加コーチは以下の4名。

- ・藤原敬弘 様（フラー株式会社 執行役員 ファウンダー CTO）
- ・大宮久司 様（株式会社オーティス 代表取締役）
- ・畑中稔 様（株式会社久恵比寿 代表取締役）
- ・須田孝徳 様（苫小牧工業高等専門学校 教授 地域共同研究センター長）



コーチの様子（藤原敬弘 様）



コーチの様子（大宮久司 様）



コーチの様子（畑中稔 様）



コーチの様子（須田孝徳 様）

合計二時間に及ぶコーチングを受け、最終日に向けてビジネスの設計を進める。

（ウ） 三日目（9：00～20：00）

三日目は開場から16時まで、最終的な準備を進める。



発表に向けた資料作成の様子

発表は16時から。1チーム5分の発表と5分の質疑にて評価を実施。審査員の皆様は以下の通り。

- ・高橋憲司 様（（一社）北海道中小企業家同友会苫小牧支部長）
- ・日向康之 様（日本政策金融公庫 国民生活事業本部 北海道創業支援センター所長）
- ・箱山秀樹 様（苫小牧信用金庫 本店 副店長）



審査員の皆様

審査のポイントは以下の3点。

- ・ validation（顧客検証）
- ・ execution and design（課題解決の実践とデザイン）
- ・ business model（ビジネスモデル）

16時となり、発表の時間がやってくる。発表の順番とチーム名は以下の通り。

- 1.AFG（焦点を全自動で合わせるデジタル眼鏡開発）
- 2.オタスケデート（訪日外国人労働者向けに地元商店の労働力を時間貸しするサービス）
- 3.チームアソビバ（VRを用いたイベントのオンライン化サービス）
- 4.げんきものづくりマッチング（アイデアの権利化から試作までを一貫してマッチングするサービス）
- 5.Matching Homa（共働き家族向け家事代行マッチングサービス）
- 6.ICE Links（苫小牧駅前へのスケートリンク開発）
- 7.ミラダリ（AI搭載のコミュニケーション特化型スマートミラー開発）



発表の様子

全チームの発表を終えて休憩を挟んだ後に、審査員による結果発表が行われた。



優勝チーム AFG

視力の低下に伴い眼鏡のレンズを付け替えなくてはならないという課題に対し、電磁的にレンズの焦点を自動で変える製品を提案。既に先行研究が大学にて行われており、その知財の活用ビジネスチャンスを見出した。高いお金を払ってでも購入したいと答える弱視の方々からの声を数多く獲得しており、また無事に製品開発が出来れば採算性も優れていることが高評価に結び付いた。

無事全てのプログラムを終了し、全体写真を撮影後に反省会へ。参加者同士はもちろん、コーチ、ジャッジ、後援の皆様との繋がりや輪を広げる大きな機会となった。



集合写真の様子（※撮影時のみマスクを外し撮影）

新型コロナウイルス感染症対策について

当日は新型コロナウイルス感染症対策を実施の上、開催した。



参加者は間隔を空けて着座



他の来館者との距離を確保



椅子に名前を貼って座る席を固定



食事は個包装で提供し、黙食を実施